



厚真中学校3年
Vol.42 おおがき たから
大垣 尊良さん

愛媛県総合運動公園陸上競技場で8月22日に開かれた「第50回全日本中学校陸上競技選手権大会」の男子砲丸投げ(5kg)で、大垣尊良さんは出場選手50人中、唯一16mを越える快投をみせ、初の全国優勝という快挙を成し遂げました。町スポーツセンターで、大会を振り返ってもらいました。

全日本中学校陸上競技の砲丸投げで全国優勝

大垣さんは、父親譲りの「回転投法」です。重心の位置や回転速度などを変えながら、黙々と練習に打ち込み、投げた感覚より距離が出なかったときは、すぐに自己分析して投法を修正します。「余分な力が入ると、距離は出ませんが、安定して距離が出せる投げ方、記録を狙う投げ方など、コンディションと相談しながら工夫しています」。指導者からは「修正能力が高い」と太鼓判を押され、練習で培われた自信が記録に結びついています。「自分でいうのもなんですが、精神的な強さが長所だと思います」。

大会直前、何度も同じ夢を見ました。湧き上がる手拍子に合わせて投てきし、優勝する夢です。夢は正夢になりました。1投目で2位に69cmの差をつけてトップに立った大垣さんは、3投目に勝負に出ました。「夢と同じだ」。観客に向かって手拍子を求め、リズムが刻まれました。客席では、両親が見つめて

います。1投目より重心を低くして回転スピードを上げ、力を込めました。16m53。大会記録まで19cmに迫る記録です。その後、日本中学記録(17m85)の更新に挑みましたが、力が入り記録は伸びませんでした。

大会終了後、厚真中学校のグラウンドですぐに練習を始めました。10月に控える3つの大会に備えるためです。「何としても、日本中学記録を塗り替えた」。新たな目標達成のために、努力を惜しみません。